

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	72	学校名	浜松南高等学校	校長名	井口 辰夫
------	----	-----	---------	-----	-------

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた (達成値 \geq 目標値+5ポイント)	C	あまり目標を達成することができなかつた (-5ポイント $>$ 達成値 \geq -10ポイント)
B	おおむね目標を達成することができた (+5ポイント $>$ 達成値 \geq -5ポイント)	D	ほとんど目標を達成することができなかつた (達成値 $<$ -10ポイント)

*基準は目安であり、数値の限りではない。

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア 高い志を育む	a 自己理解を深めさせる	自分の興味・関心や適性を踏まえて進路を考えていると答える生徒 80%以上	自分の興味・関心や適性を踏まえて進路を考えていると答える生徒 <u>85.6%</u>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりやや達成状況が上がっている。前年度に比べて2年生が低くなっているのので、探究等を通して意識向上を図りたい。 ・図書館には探究学習や小論文など進路に必要な蔵書があるため、生徒が利用しやすいように仕掛けや工夫をしていく。
	b 志を育む情報と機会とを提供する	自分の将来に対するはっきりとした夢や希望を持っていると答える生徒 70%以上	自分の将来に対するはっきりとした夢や希望を持っていると答える生徒 <u>69.7%</u>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・目標には届かなかったが、昨年度よりかなり向上している。 ・理数科については、様々な行事を通し、学年が上がるにつれ、目標が明確になった。 ・1年から目的をもって行事に取り組むよう指導が必要である。
	c きめ細かな進路指導を行う	進路指導が充実していると答える生徒 80%以上	進路指導が充実していると答える生徒 <u>77.3%</u>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・以前より充実させているつもりだが昨年度より評価が下がった。コロナが明け、できることが増えた分の充実が必要と考える。 ・学年や学校全体での統一的な進路指導の上で担任のカラーを出せるようにしたい。
イ 学力を伸ばす	a 学習意欲、思考力・判断力・表現力、知識・技能	授業が充実しており、学習意欲が高まったと答える生徒 80%以上	授業が充実しており、学習意欲が高まったと答える生徒 <u>73.7%</u>	C	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲が高まったと答えた生徒の割合は73.7%と向上した。 ・学習意欲を高める取り組みを進めるとともに、各授業において、工夫が生徒に伝わっているかの検証が必要。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	等を育む 授業を充実する	授業で、習得した知識・技能をもとに、より深く学ぶことができたと答える生徒 80%以上	授業で、習得した知識・技能をもとに、より深く学ぶことができたと答える生徒 <u>79.1%</u>	B	<ul style="list-style-type: none"> 深く学ぶことができている生徒の割合は向上した。 深い学びに繋がる授業改善を進めていくことが必要。 演習等を通じた深い学びを実感した生徒が一定数確認できた。
		授業がわかりやすく、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いたと答える生徒 85%以上	授業がわかりやすく、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いたと答える生徒 <u>77.4%</u>	C	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の74.3%から77.4%と向上した。 知識・技能と思考力・判断力・表現力をバランス良く指導することが必要。 理解力が全体的に低下していることに対応する必要がある。
	b 主体的な 学習習慣 を身に付 けさせる	家庭学習時間 平日2時間以上 休日3時間以上 主体的に学習する習慣があると答える生徒 70%以上	家庭学習時間 平日2時間以上 休日3時間以上 主体的に学習する習慣があると答える生徒 <u>63.1%</u>	C	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度よりやや高くなっている。スタディサポートの実施により、適切な学習習慣が身につくような指導を実践していきたい。 学習時間調査等の結果に対して担任、教科、部活動等、様々な立場で検証を進めたい。
		補習等授業以外学習機会が充実していると答える生徒 80%以上	補習等授業以外の学習機会が充実していると答える生徒 <u>75.5%</u>	B	<ul style="list-style-type: none"> スタディサプリの積極的活用が課題である。 運動部の顧問の人が多く、土曜補習の休講が多くなっている。
		学習活動で励ましあう友人がいると答える生徒 90%以上	学習活動で励ましあう友人がいると答える生徒 <u>87.0%</u>	B	<ul style="list-style-type: none"> 数値の上昇は、コロナ禍の時期を過ぎ、生徒の活動、交流が盛んになってきたことによると考えられる。
	月に1冊以上読書をしていると答える生徒70%以上	月に1冊以上読書をしていると答える生徒 <u>62.4%</u>	C	<ul style="list-style-type: none"> 読書は探究学習の原点であり、きっかけとして朝読書は大切である。 生徒が利用しやすい図書館運営として蔵書や特集コーナーを充実させたい。 	
ウ 人間力を 高める	a 自己管理 力を高め る	遅刻早退欠席計3回以内 90%以上 毎日朝食摂取 95%以上 睡眠時間6時間確保 55%以上	遅刻・早退・欠席計3回以内 <u>(65)%(2学期まで)</u> 毎日朝食摂取 <u>(98.0)%</u> 睡眠時間6時間確保 <u>調査無</u>	<u>B</u>	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍以降、欠席に対する意識が変化しているように感じている。 毎日朝食摂取率は県平均を上回っている。 基本的な生活習慣を含め自己管理能力が低下している。学校での指導に加え、各家庭の協力も得ていきたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		交通法規を守っていると答える生徒 90%以上 重大な交通事故ゼロ 避難先や避難経路を把握していると答える生徒 80%以上	交通法規を守っていると答える生徒 <u>88.8%</u> 重大な交通事故 <u>0件</u> 避難先や避難経路を把握していると答える生徒 <u>73.5%</u>	B	<ul style="list-style-type: none"> 重大な事故はゼロ件であったが、交通事故の数は多かった(加害・被害・双方)。交通教室や街頭指導に加え、各クラスでの周知も実施している。学校でこれ以上の対策は、難しい現状がある。 新年度、避難訓練で地震・津波と火災の場合の避難経路と避難先の周知徹底を図る。
		校則やマナーを守っていると答える生徒 90%以上 提出期限を守る、役割を果たしていると答える生徒 90%以上	校則やマナーを守っていると答える生徒 <u>89.3%</u> 提出期限を守る、役割を果たしていると答える生徒 <u>82.6%</u>	B	<ul style="list-style-type: none"> 校則の変更が行われている変革期で本校も毎年見直し・修正をしている。その変化の中で、よく対応している。学校の中で考えるのではなく、社会的にどうかという視点で見直していきたい。 生徒の自主性・主体性に重きを置くことで都合の良い解釈をする生徒が出ている現状がある。
	b 主体性・創造性・協働性を育てる	学校行事により人間力が高められたと答える生徒 80%以上	学校行事により人間力が高められたと答える生徒 <u>85.2%</u>	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での制限がなくなり、節度を守りながら生徒主体の行事運営ができた。来年度以降もさらなる発展を目指したい。
		部活動により人間力が高められたと答える生徒 80%以上 部活動と学習活動を両立させていると答える生徒 70%以上	部活動により人間力が高められたと答える生徒 <u>81.8%</u> 部活動と学習活動を両立させていると答える生徒 <u>75.8%</u>	B	<ul style="list-style-type: none"> 限られた時間の中で、スキルだけでなく多くを学ぶことができる環境が構築されてきている。 完全下校の徹底や学習を見据えた活動が実施できている。活動が中途半端にならないよう今後も実施していきたい。
工 安 全 ・ 安 心 な 教 育 環 境 を 整 え	a 施設・設備を整備する	学習に関わる施設・設備が整えられていると答える生徒 70%以上 体育・部活動等に関わる施設・設備が整えられていると答える生徒 70%以上 校内美化(掃除等)に努めていると答える生徒 80%以上	学習に関わる施設・設備が整えられていると答える生徒 <u>76.0%</u> 体育・部活動等に関わる施設・設備が整えられていると答える生徒 <u>59.2%</u> 校内美化(掃除等)に努めていると答える生徒 <u>82.4%</u>	B	<ul style="list-style-type: none"> 清掃時に見回りをを行い、清掃ポイントを伝達し、チェックする取り組みを継続する。 R9年度からの新校舎の運用開始を踏まえつつ、既存校舎等の不具合については、日常点検により早期発見をし、優先順位を考慮した修繕に努めた。 一部、所管課からの予算措置が遅れた為、時間を要した修繕もあったが、引き続き安全・安心な教育環境整備に心掛ける。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
る					<ul style="list-style-type: none"> 全HR教室にクロームキャストを整備し、環境を整えることができた。
	b 教育相談活動を充実する	悩みを相談できる人がいると答える生徒 85%以上	悩みを相談できる人がいると答える生徒 <u>84.9 %</u>	B	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有シートの活用を行った。 カウンセラーやアドバイザーとの連携について継続して行っていく。
	c 広報を充実する	(本校の教育方針や教育活動を、配布物やホームページ等を通じて) わかりやすく伝わっていると答える保護者 80%以上	(本校の教育方針や教育活動を、配布物やホームページ等を通じて) わかりやすく伝わっていると答える保護者 <u>67.2 %</u>	D	<ul style="list-style-type: none"> 社会的ニーズへの対応を考えていく。 配付物やホームページに記載するだけでなく、機会あるごとに「伝える」姿勢・工夫が必要である。
	d 業務改善を図り教職員の健康を保持する	ストレスチェック分析事業で総合健康リスクが100(全国平均)を下回る	ストレスチェック分析事業で総合健康リスクが100(全国平均)を少し上回っている	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の過渡期のため、ストレスを抱えながら業務を行っている先生方は多いと感じる。また、保護者対応が増加し、ストレスはかなり増大していると感じる。 教職員が個々の意見や考えを発信しやすい運営を行っていく必要がある。そして、助け合いながら補いながら業務を遂行していける環境を作る必要がある。 時間外在校等時間が昨年度よりも増加している。業務改善を進め、健康リスクを低減させる必要がある。